

けやき倶楽部 創立30周年記念

<創立30周年を迎えて>

皆さま、本日は「けやき倶楽部 創立30周年記念式典」にお運びいただき、誠にありがとうございます。また、横手先生、長澤先生をお迎えして記念のご講演をいただけることに至りましたことは誠に喜ばしい限りです。

さて、

けやき倶楽部は1995年、千葉大学の公開講座「高齢社会を明るく」を開催した後の懇親会での懇談をきっかけに定常的な学びの場をつくりたいという思いから誕生いたしました。

以来30年、私たちは「自主学习」「自主運営」をモットーに掲げ、会員一人ひとりが主体となって活動を積み重ねてまいりました。倶楽部を牽引された初代の生田会長はじめ、その後の青木会長、森本会長、豊田現会長のご尽力と、会員皆さまのご協力に感謝を致しますと共に、このように30周年を迎えられるのは、何といたしても、「千葉大学」という看板と「学習室」という活動拠点があったからこそであり、これを与えて下さった千葉大学様が

30年の歩みを支えて下さいました。心より御礼申し上げます。

この30年には、数々の困難もありました。特に近年のコロナ禍では活動の継続が危ぶまれる時期もありました。多くの高齢者団体が解散してしまったと聞いております。その中で当倶楽部が従前に近い形で継続できたのは、大学構内に入構禁止措置があった時でも、いずれ、コロナ禍が収束したら元に戻る場所があるとの確信があったからです。「つながりを絶やさない」という思いの下、会員同士が力を合わせ、その壁を乗り越えることができました。また、日頃の大学との調整や入会希望者からの問い合わせ窓口など、「顧問」の先生、並びに、「教育企画課」様の温かなご支援にも支えられてきました。

先生方のご講演など、学びを広げる機会もいただき、地域と学術を結びつける貴重な場ともなりました。

この様にして、千葉大学様があってこそこの「けやき倶楽部」でございます。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。

また会員の高齢化という現実もございますが、それは同時に、長年の経験と知恵が豊かに蓄えられていることの証でもあります。私たちけやき倶楽部もまた、けやきの名の通り、しっかりと根を張り、これまでの歩みを大切にしつつ、新しい時代にふさわしい学びと交流を育んでまいります。

30周年は終着点ではなく、40周年に向かう新たな出発点です。これからも「自主学习・自主運営」の精神を大切にしながら、世代を超えて人と人が学び合い、支え合う場として歩み続けることをここにお誓い申し上げますと共に、千葉大学様には従前同様のご支援をよろしくお願い申し上げ、30周年を迎えた挨拶といたします。